

番号	13	平成28年度公共事業事後評価調書	担当課名[農地保全課]		
事業名	中山間地域総合整備事業		事業主体 静岡県		
箇所名	たつやま 龍山	市町名	浜松市		
事業概要					
受益面積	28.7ha	採択年度	平成13年度 完了年度		
			当初 平成17年度 実績 平成22年度		
事業費	前回	990百万円 (H16計画変更時)	実績 924百万円		
事業量	用水路/排水路:延長 4,801m,農道:延長 4,060m,集落道:延長 353m, 農地開発:面積 4.2ha,営農飲雑用水:箇所 3地区,農村公園:箇所 2箇所,活性化施設:箇所 1棟,鳥獣害防止柵:延長 1,743m				
事業の目的・必要性					
<p>本地区は、天竜川下流域沿いの傾斜地の山間地にあり、お茶や椎茸、林業等による農林業が産業の中心となっている。しかし、茶園は小区画で分散化しており、農作業に大きな労力を要していた。また、地区全体の人口減少、高齢化が著しく、農地の荒廃が課題となっていた。このため、農地開発や農道等の整備により、優良農地の確保、作業効率の改善を図り、農業の振興をはかるとともに、活性化施設や営農飲雑用水施設等の生産基盤、生活環境整備により、定住条件を整備するとともに、都市住民との交流を促進し、農村の活性化を図る。</p>					
事業の効果等					
費用対効果分析結果	前回計画変更(H16)	B/C 1.70	総費用 9.90 億円 (事業費: 9.90 億円) (再整備費等: - 億円) (関連事業費: - 億円)	総便益 16.89 億円 (農業生産向上効果: 9.32 億円) (農業経営向上効果: 3.60 億円) (地域資源保全・向上効果: 3.97 億円)	基準年 平成16年
	事後	B/C 1.64	総費用 14.30 億円 (事業費: 10.15 億円) (再整備費等: 4.15 億円) (関連事業費: - 億円)	総便益 23.46 億円 (食料安定供給確保効果: 16.15 億円) (農業持続的発展効果: - 億円) (農村振興効果: 0.80 億円) (多面的機能発揮効果: 6.51 億円)	基準年 平成27年
1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化 ・ 土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い、総費用、総便益が増加した。					
2) 事業効果の発現状況 <食料の安定供給の確保に関する効果> ・ 農地開発により茶畑を4.2ha造成した結果、乗用型茶園管理機を導入した効率的な農作業が可能となった。 造成された茶園では農事組合法人「アグリーフ龍山」により生産・加工・販売が行われている。 ・ 農道の整備により、運搬時間が短縮され、農業輸送経費が削減された。 通作にかかる時間が短縮され、人件費や走行経費が節減された。 (事業前873時間/ha⇒事業後364時間/ha) ・ 営農飲雑用水の整備により、用水確保が容易となり、営農時間が短縮された。					
<多面的機能の発揮に関する効果> ・ 活性化施設の整備により地元特産物の加工が可能となり、付加価値化が可能となり農業所得が向上した。(H21:売上額 4,042千円 → H27:売上額 10,876千円) ・ 鳥獣害防止柵整備により、茶の幼木時の鳥獣被害を防止するなど農産物の安定的生産を確保している。					
事業により整備された施設の管理状況					
・ 排水路、農道、集落道:施設管理者である浜松市により、適切に管理されている。 ・ 農地:農事組合法人「アグリーフ龍山」により管理されている。 ・ 営農雑用水、農村公園:地元の自治会等へ管理委託されている。 ・ 活性化施設:農産物加工グループ「ドラゴンママ」により管理されている。					

事業実施による環境の変化

(1)生産力の強化について

- ・農地開発により整備された乗用型茶園管理機の利用が可能な大区画化茶園では、地域の中核的営農組織である「アグリーフ龍山」により共同摘採・共同管理が行われ、営農の効率化が図られている。
- ・農道整備により、摘採から茶工場への搬出時間が短縮され、作業の効率化が図られると共に生葉鮮度の向上に繋がっている。
- ・農地開発等に併せ「つゆひかり」「おくひかり」等市場でも評価の高い品種の導入が図られ「龍山茶」ブランドとしてイベント等へも積極的に出品し自販ルートを開拓するなど販売拡大を図っている。

(2)農村生活環境の変化について

- ・活性化施設整備によって、地場産品の加工・販売ができる活動拠点が出来たことで経済やコミュニティの活性化が図られている。
また、「ドラゴンママ」メンバーは、活性化施設の経営に一部出資により参加するなど経営意識も高く自立に向けた活動につながっている。
- ・地元住民による直営施工によって整備された農村公園は、草刈り等の日常管理も地元で行う他、自治会の避難訓練に利用される等、地域コミュニティの拠点施設となっている。

社会経済情勢等の変化

(1)地域社会の動向

- ・平成17年4月1日、浜松市と龍山町ほか2市7町1村が合併し、現在の浜松市が誕生した。
- ・市域面積は1558.04km²、人口は平成26年12月末現在、約80万人である。
- ・龍山地域の人口は、1995年の約1万2千人をピークに減少が続いている。
- ・平成26年より、都市部から龍山地区に移住した「浜松里山いきいき応援隊」2名が観光農園を目標にブルーベリー栽培に取り組む等、地域協力活動に取り組んでおり、都市・農村交流の新たな取り組みが始まっている。

(2)地域経済の動向

- ・NPO法人「ほっと龍山」による高齢者向け移動販売事業が行われ、「買い物難民」や「独居の不安」の解消を図っている。
- ・「ドラゴンママ」では、都市農村交流の一環としてこんにゃく等田舎料理の手作り体験や地元素材を使った新たな商品開発に取り組むなど地域資源を生かしたスモールビジネスを展開している。
- ・龍山地区は、魅力ある農山村地域として「ふじのくに美しく品格のある邑」に「ほっと龍山」として登録している。

対応方針（案）

(1)評価結果

- ・事業効果は発現しており、改善措置の必要はない。
- ・農地開発、農道等の生産基盤整備により、生産性の向上が図られ、法人による共同摘採・共同管理等省力化・安定化した農業経営が行われ、農業の振興とともに耕作放棄地の発生が抑制されている。
- ・活性化施設を活用した地元素材の加工や新たな商品開発が行われる等、地域経済の活性化に繋がる活動が継続して行われている。

(2)今後の課題等

- ・「アグリーフ龍山」等地域農業の担い手の経営規模拡大に向け、通作条件の改善を図るための農道網の整備が必要となっている。
- ・活性化施設は、さらなる販売力強化に向けた加工施設の改良等、機能向上を図っていく必要がある。

(3)同種事業への反映等

- ・農地開発や農道整備等生産基盤整備による営農の省力化・効率化は、担い手への農地集積に寄与し資源（農地）の有効活用と耕作放棄地の抑制にも繋がるため、県内の中山間地域の各集落においても、地元の意向を踏まえ、豊かな自然を活用した農村振興、地域活性化に取り組んでいく必要がある。

中山間地域総合整備事業龍山地区 事業効果

●事業効果の発現状況

農業基盤整備(農地開発)



乗用型茶園管理機の
利用が可能な大区画な茶園

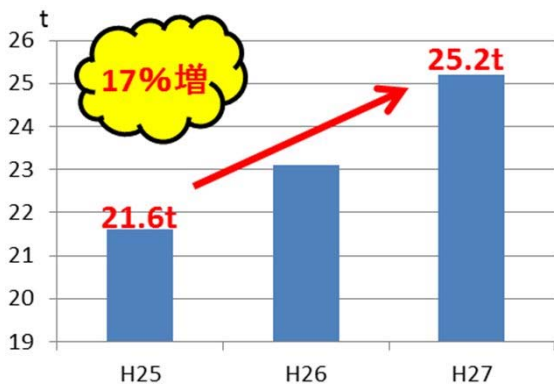
造成前



造成後



アグリーフ龍山の生葉生産量の推移



農業基盤整備(用水路/排水路)



農業基盤整備(農道)



車のすれ違いが可能になった農道

営農飲雑用水



活性化施設(ドラゴンママ)



活性化施設全景



地元の特産物の加工の様子



地元の特産物を使った加工品



イベントによる販売の様子

●事業実施による環境の変化



アグリーフのイベント販売の様子



農村公園を利用した防災訓練



直営施工による農村公園の整備、避難訓練の様子

●社会経済情勢等の変化



「ほっと龍山」が登録



浜松山里いきいき応援隊による地域協力活動の実施 (龍山地区は2名)

